

政策体系	政策No.	6	政策名	共生・協働のまちづくり		施策主管課	企画政策課
	施策No.	2	施策名	地域間・都市間交流の推進	重点施策	施策主管課長名	川村 直人
施策関係課名		総務課、観光課、生涯学習課					

1 施策の目的と指標

対象(誰、何を対象としているのか)	対象指標(対象の大きさを表す指標) 数字は記入しない	単位
市民、行政 行政(市、姉妹都市などの交流都市を含む) 相互関係を築いている地域・都市に加え、山村交流なども含む	A 人口 住民基本台帳の数値を使う場合には外国人登録者数を含める 市内在住の外国人との交流も国際交流の範囲に含める	人
	B 関連団体・事業所数(国際交流協会など) ここで含める事業所とは国際交流・地域交流を目的とした活動を行っている事業所とする。	団体
	C 継続的な交流を行っている国内外の地域・都市の数 各部門で定期的に交流している地域・都市をピックアップする。	地域・都市
意図(この施策によって対象をどう変えるのか) 相互協力関係を築く 継続的な交流を通じて、協力関係(災害時の相互応援や観光イベントなどの共同開催、人材育成のための人事交流(小中高校生のホームステイ等含む)、文化交流、特産品の相互紹介などの経済交流)を築き霧島市の発展に寄与していくことを目指す。	成果指標(意図の達成度を表す指標) 数字は記入しない A 交流先との相互協力関係が築かれていると感じている市民の割合 B 交流活動に参加している市民の割合 C 相互協力関係を築いている地域数、都市数 D E F	% % 地域・都市
右上の成果指標の測定方法(実際にどのように実績を把握するか) ・A...交流先との相互協力関係が築かれていると感じている市民の割合 総合計画進行管理に係る市民意識調査 ・B...交流活動に参加している市民の割合 総合計画進行管理に係る市民意識調査 ・C...相互協力関係を築いている地域数、都市数 交流先と合わせて内部調査(市以外が行う交流活動含む)	基本計画期間における施策の目標設定(2-)の根拠 ・「交流先との相互協力関係が築かれていると感じている市民の割合」については、交流活動そのものの充実及び情報発信に努めることにより交流活動の認知度を高め、8.5%の成果向上を目指す。 ・「交流活動に参加している市民の割合」については、農業体験などを通じた地域間交流を積極的に推進するとともに、PRの強化などにより現状の約1.5倍の水準である12%を目標値として設定する。 ・「相互協力関係を築いている地域数、都市数」については、既存の交流先に加え、現時点で交流関係を結びたいという意思表示のある海外2都市、国内1都市と新たに相互協力関係を築くことを見込み、3都市の増加を目指す。	

2 指標等の推移

	単位	数値区分	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度(目標年度)
対象指標	A 人	見込み値 実績値	127,219	127,309	127,615	127,736	127,811	128,383	128,640	128,868	129,098
	B 団体	見込み値 実績値	15	15	9	9	8	9	10	10	11
	C 地域・都市	見込み値 実績値	15	15	15	15	15	15	16	17	18
成果指標	A %	成り行き値 目標値 実績値				51.5	51.5	51.5	51.5	51.5	51.5
						52.0	53.0	54.0	56.0	58.0	60.0
					51.5	51.4	55.7				
	B %	成り行き値 目標値 実績値				8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	8.2
						9.0	9.5	10.0	10.5	11.0	12.0
					8.2	3.9	4.8				
C 地域・都市	成り行き値 目標値 実績値				15	15	15	15	15	15	
					15	15	15	15	16	17	
			15	15	15	15	15				
D	成り行き値 目標値 実績値										
E	成り行き値 目標値 実績値										
F	成り行き値 目標値 実績値										

3 基本計画期間における施策の方針(総合計画書より)

・地域間・都市間交流活動の情報発信に努めるとともに、交流活動への市民の積極的な参加を促進し、姉妹都市等と交流の充実を図る。 ・交流のための民間組織・人材の育成、充実に努め、民間交流を促進する。

4 施策の特性・状況変化・住民意見等 この施策の役割分担をどう考えるか(協働による市民と行政の役割分担)	
ア)行政の役割 (市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)	イ)市民(住民、事業所、地域、団体等)の役割 (市民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)
<ul style="list-style-type: none"> 行政 地域間・都市間交流の情報を発信する。 地域間・都市間交流の人材育成。 在住外国人のサポート 団体との連携による交流活動の推進。 団体等が行う交流活動への支援。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民 地域に愛着・誇りを持ち、地域資源を活用しながら地域間・都市間交流へ参加する。 団体(国際交流協会等) 広く市民を対象とした交流活動の推進。
施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか?(平成24年度を見越して)	この施策に対して市民(対象者、納税者、関係者等)、議会からどのような意見や要望が寄せられているか?
<ul style="list-style-type: none"> ビジネス、観光面において更に国際化が進展していく。 市としては、旧市町が交流していた都市との盟約締結へ向けて取り組む。 団塊世代の受入れなどで交流活動が多様化する。(田舎暮らしの見直しなど) 静岡鹿児島間の航空路線の開設。(平成21年7月23日)、九州新幹線の全線開通(2011年春)。 霧島市出身者の組織である「首都圏霧島市ふるさと会」が平成18年7月12日に結成され窓口が一本化されたことにより効率的に市との連携が図られる。 平成20年4月に霧島市国際交流協会が発足した。 平成19年度に中国耀州区、瀏陽市と友好交流協議書を結びなおした。 	<ul style="list-style-type: none"> (市民、団体からの意見) 在住外国人との交流活動を積極的に進めてほしい。 交流センターを設置し、外国人との交流ができる環境を整備してほしい。 外国人のホームステイを受入れたい。 地域間・都市間交流の情報が欲しい。

5 施策の評価(成果水準の振り返り)	
施策の目標達成度(平成20年度目標と実績との比較)	
結果	左記の背景として考えられること(根拠となる実績値、判断理由など)
目標達成 (目標値より実績値が110%以上) 目標をほぼ達成 (目標値より実績値が90%以上110%未満) 目標を未達成 (目標値より実績値が90%未満)	・A...耀州区、瀏陽市、マラッカ市からの受入れや耀州区、アメリカ、ラオス、釜山市などを訪問していること及び海津市との姉妹都市交流を市民が認知しつつある。
成果指標	結果
A 交流先との相互協力関係が築かれていると感じている市民の割合 目標値と比較して実績値が 105% であった。	・B...お互いの地域・都市の相互理解や友好親善を図り、情報提供などに努めたが、交流活動への参加が少ない。 単年度に限っての設問であるため、成果指標の向上は難しい。設問を検討する必要がある。
B 交流活動に参加している市民の割合 目標値と比較して実績値が 51% であった。	・C...交流先からの訪問団受入れや交流先への訪問を行っている。また、市訪問幹旋などを行い、交流の維持拡大を図るため、目標を達成できた。
C 相互協力関係を築いている地域数、都市数 目標値と比較して実績値が 100% であった。	
D	
E	

6 施策の現状	
施策の基本方針の達成状況	施策の平成24年度目標達成見込み
<ul style="list-style-type: none"> 情報発信については、市報、チラシを配布するなどし、認知度が向上し、参加対象者を市内全域に広げ、各地区からの参加者が交流活動へ参加することができた。 海津市、中国、アメリカ、ヨーロッパへ交流に行くなど、姉妹都市等と交流が図られ、観光の振興など産業振興にも寄与できた。 市全域を対象とした新たな国際交流組織の設立準備が整った。(国分・隼人 市全域) 民間交流としては、国際交流協会が青少年をマレーシア、中国へ派遣するなどし、交流活動、人材育成が図られるとともに、市内において民間団体が主体とした交流活動に参加するなど交流活動の機運が高まった。 	<ul style="list-style-type: none"> 交流先との相互協力関係が築かれていると感じている市民の割合を60%に掲げており、達成できる見込みである。 交流活動に参加している市民の割合を12%に掲げているが、設問の仕方に問題があると考えられるので、設問方法について検討する。 相互協力関係を築いている地域数、都市数を18と掲げているが、相手都市の事情もあり目標達成は厳しい状況にある。

8 平成22年度の施策の基本方針 (課題解決に向けた取り組み方針)
<ul style="list-style-type: none"> 市報・インターネット・チラシ等を活用して市民への情報発信を目指す。 交流事業を全市的な取り組みに広げる。 交流先との関係強化と交流内容の充実を目指す。 民間交流団体の組織充実・人材育成のサポートの充実を目指す。 芸術文化・スポーツ面の交流促進と地域活動の活性化を目指す。 霧島市国際交流協会の事務局を官から民に移し、民間主導の交流推進を目指す。

7 施策の課題	
基本計画期間で解決すべき課題(総合計画書より)	平成22年度に取り組むべき課題
<ul style="list-style-type: none"> 地域間・都市間交流活動の周知のための情報発信を行う必要がある。 合併前の旧市町において交流を行っていた姉妹都市との関係の強化を図る必要がある。 芸術文化、スポーツ面の人材・団体等の受入れを推進し、地域での交流活動の活性化を図る必要がある。 交流のための民間組織・人材の育成、充実を図り、民間交流を促進する必要がある。 	平成22年度に重点的に取り組むべき課題は次のとおりである。 <ul style="list-style-type: none"> 地域間・都市間交流活動の周知情報を発信する必要がある。 交流を続けてきた姉妹都市・友好都市との関係強化を図る必要がある。 具体的には、 <ul style="list-style-type: none"> 芸術、文化、スポーツの人材・団体等の受入れを推進し、地域交流の活性化を図る必要がある。 地域間・都市間交流の民間組織・人材育成に努め、民間交流を図る必要がある。

1 基本事業の目的、取組み方針													
基本事業	基本事業名	基本事業主担当課	基本計画期間における取組み方針 (総合計画書より)										
6-2-1	地域間・都市間交流に関する情報発信	企画政策課	市、団体、企業が行う地域間・都市間交流の交流先の情報並びに交流活動の情報発信を行うことにより市民への周知を図り、関心を高める。										
対象		市民		意図		交流活動への理解及び関心を高める。							
2 基本事業の指標等の推移													
成果指標名	単位	成果指標の測定方法	数値区分	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度(目標年度)	
A	%	市民意識調査	成り行き値					59.5	59.5	59.5	59.5	59.5	
			目標値					60.0	64.0	68.0	72.0	76.0	80.0
			実績値			59.5	65.3	60.3					
B			成り行き値										
			目標値										
			実績値										
C			成り行き値										
			目標値										
			実績値										
3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠				4 平成20年度の基本事業の振り返り(目標達成度評価)と平成22年度に向けての課題				5 基本事業の平成22年度の方針					
交流活動の充実及び情報発信に努め、まず交流活動そのものの認知を高める必要がある。その上で、地域間・都市間の交流活動のことを知っている市民の割合を平成24年度までに80%に引き上げる。(市民意識調査のまったく知らないとしている方の半分の認識を変えることで達成可能な水準)				友好交流都市、新たな国際交流の展開、日中花火の共演、国際交流の魅力など広報誌に掲載し、市民に交流活動の認知を高めた。 課題としては、交流活動の認知度を高める必要がある。				市報・インターネット・チラシ等を活用して市民への情報発信を目指す。					
6 平成22年度の基本事業の重点「対象」・「意図」													
対象		市民											
意図		交流活動への理解及び関心を高める。											

1 基本事業の目的、取組み方針													
基本事業	基本事業名	基本事業主担当課	基本計画期間における取組み方針 (総合計画書より)										
6-2-2	地域間・都市間交流活動の推進	企画政策課	地域間・都市間交流活動の積極的な推進により相互協力関係を築き、地域の活性化を図る。										
対象		市民 行政		意図		定期的・継続的な交流関係を築く。							
2 基本事業の指標等の推移													
成果指標名	単位	成果指標の測定方法	数値区分	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度(目標年度)	
A	地域・都市	事務把握	成り行き値					15	15	15	15	15	
			目標値					15	15	15	16	17	18
			実績値			15	15	15					
B	%	市民意識調査	成り行き値					8.2	8.2	8.2	8.2	8.2	
			目標値					9.0	9.5	10.0	10.5	11.0	12.0
			実績値			8.2	3.9	4.8					
C			成り行き値										
			目標値										
			実績値										
3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠				4 平成20年度の基本事業の振り返り(目標達成度評価)と平成22年度に向けての課題				5 基本事業の平成22年度の方針					
継続的な交流関係を築いている地域・都市数については、国内外合わせて平成24年度までに18都市とする。既存の交流先に加え現時点で交流関係を結びたいと意志表明のある海外2都市、国内1都市を想定。 特に農業体験など地域間交流を積極的に推進し、市民の参加者の割合を平成24年度までに12%(現状の1.5倍の水準)まで引き上げる。合併直後であり、まだ全市としての交流活動となっていない現状があり、PRなどにより、参加者増は期待できる。				諸外国からの訪問団の受け入れや諸外国への訪問、国内の交流都市との相互訪問などを実施し、市民参加を実現したが、参加している市民の割合が低い。 課題としては、交流先の情報提供や交流内容を広報し、市民の理解を得る必要がある。また、継続的な交流関係を築いている地域・都市との絆をさらに太くする必要がある。				・交流事業を全市的な取り組みに広げる。 ・交流先との関係強化と交流内容の充実を目指す。					
6 平成22年度の基本事業の重点「対象」・「意図」													
対象		市民 行政											
意図		定期的・継続的な交流関係を築く。											

1 基本事業の目的、取組み方針			
基本事業	基本事業名	基本事業主担当課	基本計画期間における取組み方針 (総合計画書より)
6-2-3	交流のための民間組織・人材の育成、充実	企画政策課	民間組織の育成と交流活動の充実を促進し、併せて人材の育成を図ることにより、民間主導の活動展開が可能となるように努める。

対象	市民	意図	・団体の組織、活動が盛んになる。 ・人材が育つ。
----	----	----	-----------------------------

2 基本事業の指標等の推移													
成果指標名	単位	成果指標の測定方法	数値区分	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度 (目標年度)	
A	団体数	団体	事務把握	成り行き値				9	9	9	9	9	
				目標値				9	9	9	10	10	11
				実績値		15	9	9	8				
B				成り行き値									
				目標値									
				実績値									
C				成り行き値									
				目標値									
				実績値									

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠
 平成20年度には、国際交流協会の統合を行ったが、関西地域の新たなふるさと会の設立を見込み、数の増減はない。その後NPOや福岡地域との交流団体などの新たな民間組織が立ち上がることも考えられるため平成24年度には11団体まで増やす。

4 平成20年度の基本事業の振り返り(目標達成度評価)と平成22年度に向けての課題
 平成20年度、新規に霧島市国際交流協会が設立し、派遣事業や交流活動が推進できた。関西地域のふるさと会は、まだ設立の準備段階である。課題としては、交流活動を積極的に進める新たな民間組織と人材の育成が必要である。

5 基本事業の平成22年度の方針
 ・民間交流団体の組織充実・人材育成のサポートの充実を目指す。
 ・霧島市国際交流協会の事務局を官から民に移し、民間主導の交流推進を目指す。

6 平成22年度の基本事業の重点「対象」・「意図」	
対象	市民
意図	・団体の組織、活動が盛んになる。 ・人材が育つ。

1 基本事業の目的、取組み方針			
基本事業	基本事業名	基本事業主担当課	基本計画期間における取組み方針 (総合計画書より)

対象		意図	
----	--	----	--

2 基本事業の指標等の推移													
成果指標名	単位	成果指標の測定方法	数値区分	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度 (目標年度)	
A				成り行き値									
				目標値									
				実績値									
B				成り行き値									
				目標値									
				実績値									
C				成り行き値									
				目標値									
				実績値									

3 基本計画期間における基本事業の目標設定の根拠

4 平成20年度の基本事業の振り返り(目標達成度評価)と平成22年度に向けての課題

5 基本事業の平成22年度の方針

6 平成22年度の基本事業の重点「対象」・「意図」	
対象	
意図	